

## 再びプラハ、たまにはヴェエナ

愛媛大学総合健康センター 村上 和恵

さて、あっという間に4ヶ月が経過。再びクリスマス前のプラハへと旅立つことに相成りました。今度は73歳になる岡山の妹尾さんを伴って、しかも日本全国大荒れの天気、飛行機のキャンセル数十本（この中には広島・羽田便も含まれていました）の中を、空港カウンターで早い便に乗り換えて。始まりから荒れに荒れたスタートでした。

何はともあれ無事に羽田着。しばらく待っていると妹尾さんも到着。すぐさま羽田国際空港へシャトルバスで向かいました。ここで一人のフィリピン人の女性に出会いました。アメリカ在住ですが、1週間ほど帰郷し羽田で乗り換えてロスアンジェルスまで向かう予定だったのですが、間に合わず24時間を空港の中で過ごす羽目になったようです。彼女の話に耳を傾け、慰めながら数時間を過ごしました。最後にメールを交わしてbye-bye。どこにでも新たな出会いはあるものです。

### 「みなさん気になる「航空運賃」」

松山-羽田-パリ-プラハ-ヘルシンキ-成田-松山にかかった費用は税金も含めてしめて141,280円でした。JALでしたので比較的快適でしたが、失敗もありました。忙しくて事前に確認を怠ったのもあるのですが、日本からの出発便名がJALでしたのでそのつもりでいたところ、実はエアフランスの共同運航便だったのです。エアフランスのチェックインバゲッジは小さな1個だけ。しかも松山からの荷物はいったん羽田で預け変えなければなりません。前回は松山の自宅からプラハまで2個（サイズもかなり大きめ）運んでもらったので非常に楽でした。今回は機内持ち込みもサイズがかなり小さく、前回と比べると大変でした。しかも出発は真夜中！みなさん、飛行時間だけでなく荷物や食事の有無なども含めて日程表は事前にしっかりと確認しましょう♪

### 「いきなり「お誕生日おめでとう！」」

到着した日は妹尾さんの誕生日。バボーファカというチェコの伝統的なケーキとお料理に妹尾さんは感激。蝋燭の火を「ふう〜っ」と力いっぱい吹き消しました。翌日はクララがクリスマスマーケットに連れて行ってくれました。彼女は20歳ちょっとですが、よく本を読み歴史や芸術に興味を持っています。外国人の友人も多く、しかもプラハに住んでいますので、その後もさまざまな面で助けてもらいました。



・クララはとっても知的でかわいいおしゃれな女の子

### 「滞在先」

今回もカズくんのアパートが滞在先でしたが、以前から Mignon さんに「いつでも自分のアパートに泊まってもいいよ」と言われていたので、お言葉に甘えて彼女からからキーを預かりました。しかしその前にまず一番気になる「Big Task!」を片付けなくてはなりません。「Big Task」とは預かった鍵を使い玄関のドアを開けることです。しかも Mignon さんが田舎のターボルの家に帰ってしまわないうちに！「開ける」「閉める」「開ける」「閉める」を繰り返すこと 30 分。Mignon さんはそ知らぬ顔で奥の部屋でテレビを見ています。その夜誰もいないアパートの部屋の鍵穴にキーを差し込み、何度か回したあと、カチッと音がして、ドアのノブを持つ手が不意に軽くなった瞬間「やった〜！」と思わず叫んでしまいました。



・ Mignon さんとお孫さんとアーチャー

・ 長男（ヤンさん）と次男さん一家と Mignon さん

### 「ヴィエナ（ウイーン）へ」

そうこうしている内にインドからアクシャット君到着。アクシャット君はカジュ君の弟（実際は従弟）、弁護士に成り立ての初々しい「おのこ」です。兄嫁とかわいい甥に会いたい一心でデリーからパリ経由でプラハへやってきました。2~3日プラハで過ごした後、みんなで rail jet を使いウイーンへと向かいました。クリスマスを過ごすためです。あらためて同乗者名を挙げますと、カジュ君、シュルティちゃん、子供のキリちゃん、アクシャット君、妹尾さんとわたくし村上の5人半です。プラハからウイーンまでは4時間。非常に安くて快適な列車の旅でした。帰りには車内食堂を利用しました。メニューはボリュームたっぷりです。思ったよりも安いのに驚き！日本人乗客の顔もチラホラ見えましたよ。

ウイーンではアパートを3日間借りました。夜はカジュ君と二人で聖ステファン教会付近を探検。どこでも初めての場所は可能な範囲で事前に調べておきます。そのときになってあわてることは多々あるものです。でもこうやって肌身で感じておくと臨機応変に動けます。

ここウイーンもメトロが発達していますので移動は非常に楽でした。雨の中12月25日にショーンブルン宮殿を訪れました。ここは滞在先からメトロで2駅。人数を制限しているため、宮殿内に入ることができる時間まであと2時間。宮殿前の広場にはこの年最後のクリスマスマーケットが「所狭し」と立ち並んでいます。ひとつひとつ見て廻るうちに妹尾さんは我慢できず、とうとうショッピングを始めてしまいました。実はプラハに帰っても1月10日くらいまではクリスマスマーケットは続いていて最後の3日間はかなり値下がりするのです。しかもユーロは全く持っていません。しかたがないのでカジュ君経由で50ユーロだけ渡し、宮殿内ではカードを使っても

らうことにしました。広場ではソーセージやホットワイン、ホットチョコレートを楽しんでいる人が多かったです。

モーニングはカフェ「デメル」で。タイミングよく客が増え始める前に席に着くことができました。日本や中国からの観光客が多かったですね。私もその中の一人なのですが。デメル特製の大きなチョコレートケーキを Mignon さんのお土産に買いました。ケーキもさることながらあんなにもおいしいコーヒーを飲んだのは初めてです。



### 「セレブに混じってコンサート」

カテリーナはカレル大学の生物の研究者です。ハープを演奏しますし、自作の歌もうたいます。夫のヤン（同じくカレル大学の研究者）もジャズをしています。今は忙しくて活動休止。その代わりヤンのお母さんは科学的な音楽関係の仕事（たとえば音の分析など）をしているので、とてもユニークですばらしいコンサートを予約してくれました。早速カテリーナ夫妻に妹尾さん、私の4人で出かけました。なんとこれが「マリオネットのコンサート」。劇場は「ROKOKO」。ステー

ジの上には 2 組のアンサンブル。一方は女性だけ。最近ユネスコから表彰されたとか。真ん中にクリスマスを題材にしたマリオネット。3 人の王様が言い争っています。急に動物が出てきて飛び跳ねたり、場内は笑いの渦。あとでカテリーナが言うには、歌はラテン語や古いチェコ語が使われていて、彼女たちにも難しかったとのこと。でも演奏にしても二人の歌い手にしても（彼女たちは演奏もします）とてもすばらしく緻密で、サービス精神も旺盛、すばらしいマルチアーティストだということだけはわかりました。ステージが終わったあと観客はステージの上に上がって写真を撮るのも自由、演者とおしゃべりするのも自由。おおらかで楽しいステージでした。

さて、数日後カズ君が言いました。カテリーナは初め別のコンサートを予約していたんだ。でもヤンのお母さんがいろいろ調べなおしてチェコらしいユニークな出し物を選んでくれたんだよ。空き席はなかったでしょう？一人 12,000 円くらいするんだ。有名人もたくさん来るんだよ。チェコではこんなに高いコンサートは珍しいんだ。 . . . .とかなんとか。話し十分の一のカズ君ですが、その後別の日にマダムバタフライのオペラを見に行き、その芸術性の高さにもかかわらず 3,000 円ほどなのにあらためてビックリ！おまけにこちらのほうも Mignon さんからのプレゼントだったのです。

#### インスタントお茶席

外国の友人を訪ねるときには、緑茶、抹茶と茶せんと抹茶茶碗のセット、干しいたけ、ゴマ、昆布だしの素、小さなパック入りお醤油、わさびのチューブ、柿の種、板チョコ、アーモンドチョコ、マカダミアナッツチョコ、コーンスープなどを全部または部分的に持参します。食べ物が一番日本紹介に役立つようです。冬場ならば着物ドレスも。最近古い着物もプレゼントとして持って行きます。写真はカテリーナの家で「着物を着て抹茶をいただく」というのをやったときのものです。少々着物と帯の格があわなくても、袖丈が短くても「気にしない」。海外では緑茶愛好家はとても多いです、女性の着物に対する憧れはみなさんの想像以上ですよ。



カテリーナと研究室のスタッフや学生

「クトナホーラかカールシュテインか？それが問題だ！」

前夜遅くまで「カールシュテインだ」「いいえクトナホーラがいい」「いやいや」などと話し合っていたのですが、インターネットで調べてみることにしました。ここでクララが存在感発揮。チェコ語の検索はお手の物。結局妹尾さんの体力や歩行のことを考えてカールシュテイン城という古い中世のお城に行くことにしました。念のため交通経路も確認しお昼のためにバラ寿司を準備。妹尾さんの杖も持ったし、いざ出発。1時間の列車の旅はあっという間でした。駅を降りると山のほうへと道はのびています。田舎道です。観光客はほとんどなし。それもそのはず。こんなに寒い雪の降るようなとき行かなくても夏のさわやかな季節がぴったりの場所です。でも私にとっては、それはそれで小トレッキングみたいで楽しかったですよ。

さて、カールシュテイン城は山の中。いかにも「中世」といった古いお城です。14世紀にカレル4世によって建てられたそうです。華やかさはありませんがシンプルにしっかりと作ってあります。山の中ですので「カレルの石（カールシュタイン）」と呼ばれるだけあって周囲の岩なども上手に建物に取り込んでいます。冬場でしたので8つの部屋を廻るコースでした。必ずガイドが付きます。カールシュテイン城には王家の金銀財宝の保管庫のような役割があったらしく、とても古い絵画や美術工芸品、まばゆいばかりに光り輝く黄金と宝石の王冠！「機会を作ってまた来ようっと♪」



その他



・白抜きの数字は夜間のトラムの番号



・12/24は鯉を食べる習慣なのだそうです



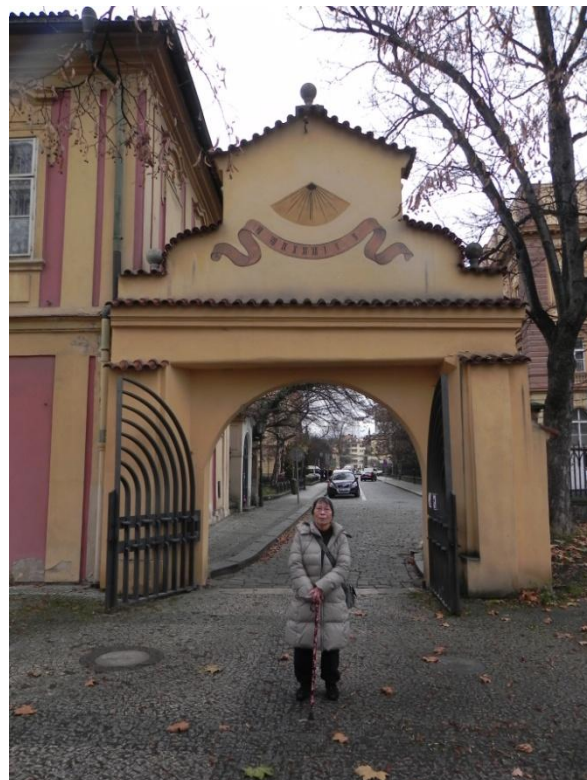
・ミュシャのミュージアムへ向かう途中で



・オールドタウンスクエアの古い時計



・仕掛けを見に1時間毎に人々が集まります



・日時計，カレル大学への途中で

雪は一度 12/29 の明け方から降り， 2センチくらい積りましたがあまり寒さを感じませんでした。友人の名前 Mignon は「ミニヨン」と聞こえましたが，私は「ミグノン」と呼んでいます。